

平成 21 年 4 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 21 年 第 4 回講話

心に残る言葉

今日は、レジメの「心に残る言葉」を先にご紹介します。これは、毎回違う言葉を紹介しております。

今日ご紹介する本は、信念する（信じて念ずれば、必ず達成できる）ということで、中村天風先生の話を書いた宇野千代さんが書いておられます。

私は、いまから十七、八年前、『おはん』という作品を書いたあと、ぴったりと筆がとまった。一行も書けない。（中略）

「人間は何事も自分の考えた通りになる。自分の自分に与えた暗示の通りになる。」あの夜、天風先生が言われた。（中略）

十七、八年の間、ぴたりと一行も書けなかった私が、ある日、ほんの二、三行書いた。書ける。また、一枚書いた。書ける。ひょっとしたら、私は書けるのではあるまいか。そう思った途端に書けるようになった。書けないのは、書けないと思ったから書けないのだ。書けると信念すれば書けるのだ。

『天風先生座談』宇野千代著 廣済堂出版

信じて念ずれば必ず出来る。「念ずれば花開く」という言葉がありますが、それと一致するように思います。

恒例の質問

「昨日一日、朝起きてから寝るまでの間、嘘をつかなかった方はどれくらいおられますか」

（・・・沢山手が挙がる）

有難うございます。皆さんを見ていますと、一瞬考えますから、そうすると手が半分の高さまで挙がったり下がったりしますね。夜寝る時に、今日一日どういう事をしたのか思い返してみる習慣が付いていれば、嘘をついたか・つかないかの判断が、さっと出来ると

思います。

以前も申しましたが、渋澤栄一さんが『論語講義』の中で、毎晩寝る時に、今日一日何があったか・約束を実行したか・嘘をつかなかったかどうか・・・をずっと思い返して、大丈夫だと思ったら安心して寝ることを繰り返していたと書いてありました。それを私も踏襲させて戴きました。

次の質問です。

「昨日一日、良い日だったと思う方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

昨日は何か失敗したなあ、という方も何人かおられたようです。

もう一つお聞きします。

「昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方、手を挙げて下さい」

私も昨晚自問自答しましたら、そこで止まりました。昨日は一日聖橋事務所におりまして、会話を交わしたのは詩吟の会合に出かけた時だけでしたから、有難うと言われる事はありませんでした。でも、明日は頑張ろうと思いました。

もう一つ、新しい質問を致します。

「今日、これから何か予定があつたりして楽しみだと思っている方はおられますか」

(・・・沢山手が挙がる)

大勢いらっしゃいました。何か楽しみがあると、一日楽しいですね。私が今日楽しみだと思っている事は、福田理事のビジネスホテルでお昼を戴く事です。福田理事の奥様の顔を見ると、ニコニコされていて非常に温かみが伝わって来て、良いなと感じます。

最近私は宇都宮・新白河・立川のビジネスホテルに泊まりました。金額は大体 5900 円から 8800 円でしたが、全部一律同じだったのは、朝食の無料バイキングでした。これが極端で、食べたいものが食べたいだけ置いてある場所と、そうでない所と様々です。ビジネスホテルの値引き合戦の中で、また行きたいと思わせる所が一つだけありました。それは味噌汁が手作りだった所です。ですからそれぞれのお仕事の中で、何かポイントがあるのではないかと考えています。

余分な話を致しましたが、これが楽しみだというものが、一日のうちに一つでもあれば素晴らしいと思います。

今日の論語

フォーラム冒頭で素読された論語章句についてお話しするようにとのことですので、一

篇ずつ進めてまいりましょう。

論語は普通の解釈をした後で、自分の日常生活に置き換えて考える事が大切です。

りんぼう れい もと と しいわ だい と
林放 礼の本を問う。子曰く、大なるかな問うこと。

れい そ おご むし けん そう そ おさ むし いた
礼は其の奢らんよりは寧ろ儉なれ。喪は其の易まんよりは寧ろ戚めと。(八佾第三)

林放という人が、「礼の根本は何でしょうか」と孔子に聞きました。

孔子が、「あなたの質問は良い。そういう根本的な大きな問題を聞くという事は、あなた自身が立派だからだ。」と答えました。

礼は其の奢らんよりは寧ろ儉なれ・・・沢山人が集るような行事は、派手にやるよりは質を中心に儉約を心掛けなさい。

例えば、中斎塾フォーラムで色々なイベントをします。その場合も、心のこもった事を考えて、派手な演出はなるべく止めた方がよかろうという事です。政治家の金集めパーティーなどは、お金は沢山集めますが並ぶ食事は質素ですから、皮肉を言えば、この論語の言う通りですね。

喪は其の易まんよりは寧ろ戚めと・・・会社の社長さんの奥さんが亡くなった場合、商売の付き合いで弔問に来る人が多いので、派手なお葬式になる事が多い。私の知り合いの方で、母親が亡くなられて弔問に伺いましたら、本当に身内だけでしめやかに送っておられました。真心のこもった葬式だと感じました。どちらかと言えばお葬式は、そういう真心のこもったものが良いですね。あまり華美なものはない方が良いという意味です。

しいわ いてき きみあ しょか な こと
子曰く、夷狄の君有るは、諸夏の亡きが如くならざるなり。

夷狄とは、とうい せいじゆう ぼくてき なんばん
東夷・西戎・北狄・南蛮という四つの野蛮人という意味です。中国から見れば、日本は東夷です。

野蛮人の国でも、きちんとした君子がいれば、君子を追い出した魯の国よりもまともである、という意味です。孔子が、自分のいる魯の国について、野蛮人の国でもトップがきちんといるのに、我々の国はいないではないかと嘆いています。

翻って日本を考えると、日本は非常に珍しい国だと外国からは映っています。それは天皇陛下が日本の国におられるということです。ですからこの文章を読んで、仮に天皇制がなくなったら、どういう国になるのだろうか？ とお考え戴くとよろしい。

き し たいざん やままつり し ぜんゆう い いわ なんじすく あた
季氏 泰山に 旅 せんとす。子 冉有に謂いて曰く、女 救うこと能わざるかと。

こた いわ あた しいわ ああ すなわ たいざん りんぼう し おも
対えて曰く、能わずと。子曰く、嗚呼、曾ち泰山は林放に如かずと謂えるかと。

泰山の大きなお祭りは、本来、魯の哀公がすべきものです。日本ですと天皇陛下が主催しなければいけないお祭りです。それを身分の低い季氏がお祭りを主催することは、実に傲慢で驕り高ぶっている。自分が将来下剋上で君主になるという気持ちがあるから、こういう事をするのであろう。

孔子が弟子の冉有に、「今、お前が仕えている主人は、とんでもない事をしようとしている。止める事はできないか」と聞いたわけです。冉有が「出来ません」と答えたので、孔子が慨嘆して、「泰山の山の神様が、こういう非礼を許すはずがない」と歎息したという内容です。

自分たちに置き換えてみれば、こんなに贅沢をして良いのだろうかと思つて反省する気持ちを、時々持った方が良いという事です。何かの本で読んだのですが、或る方が旅行先で有名な会社の会長夫妻に出会ったそうです。御二人の泊まっている宿に訪ねて行ったら、木賃宿で、六畳一間の風も通らないような部屋に座っていた。「なぜこのような宿に泊まっているのですか」と聞くと、「裸一貫で始めたのが、今はこんなに贅沢をしている。時々昔を夫婦して思い出す為には、旅行した時にこういう宿に泊まっている」と答えたそうです。

人間は知らず知らずのうちに贅沢になって増長してしまうから、自分で見直すのが良い、と置き換えて読めばよろしいでしょう。

しいわ くんし あらそ ところな かなら しゃ
子曰く、君子は争う所無し。必ずや射か。
ゆうじょう のぼ くだ の そ あらそ くんし
揖讓して升起、下りて飲ましむ。其の争いや君子なり。

君子の争いごとは、日本の相撲のようなものである。土俵に上る時にはきちんと礼をし、負けても勝ってもきちんと礼をして降りる。

この文章は六芸の一つ、弓道です。

君子は争わない。もし争う場合があるとすれば、弓を射る時である。弓を射る時には、両手を前に組んでお辞儀をして上り、負けた方にはお酒を飲ませる。

但し、論語は色々な読み方をされていますから、勝った方にお酒を飲ませるという説もあります。

しかと いわ こうしょう せん びもく はん そ もつ あや な なん い
子夏問いて曰く、巧笑倩たり、美目盼たり、素以て絢を為すとは、何の謂いぞ
やと。子曰く、絵事は素を後にすと。曰く、礼は後かと。子曰く、予を起す者なり。

しょう はじ とも し い
商 や、始めて与に詩を言うべきのみと。

巧笑 倩たり、美目 盼たり、素 以て絢を為す・・・これは『詩経』の中の「国風」という詩です。今風に解釈して詩にしてみました。

心がとろけるその笑顔
その口元には引き寄せられる
鮮やかでくっきりしたその目元
何もしないのにこれだけ素晴らしい
どうしてこの上お化粧をするのだろうか

子夏が孔子に聞きました。

「元々綺麗なのに、どうしてお化粧をするのか・・・とは、どういう理由ですか？」

孔子が答えました。

「絵を書く時には、色々な色を塗って最後に白色をくっきりと綺麗に書くことによって、全体の構図が綺麗に見えるものだ。人間も生地を活かすようなお化粧をするのが良い」

子夏が更に尋ねました。

「では、礼儀作法は心の後（地塗りをした後）に言うべきものですか」

子夏は、空気が読めるというか察知する能力に長けていました。孔子が子夏の頭の回転に驚いています。絵の書き方について孔子が説明したのに対して、子夏が即、人間としての基本的なものの考え方はかくあるべきだというように置き換えて問うたわけです。

それに対して孔子が、「お前は詩に関しては、私の心の中からすべてさらけ出して話が出来ると、返って来る。本当に実に得がたい人物に出会ったものだ」と改めて感じた。これからは詩について、一緒に話し合おうではないか・・・」と語っています。

こういう人は結構自分の周りにいるものです。日頃は物静かで、ぼそぼそと言っているけれども、よく聞いてみると素晴らしい事を言っていると気が付く。今まで付き合っていた人の本当の人間像・実力が見えて、これは凄いという事になります。自分の身の周りの人物を見ていれば、これは素晴らしいと感じる人にどこかで出会える。自分自身を磨かなければ、なかなかそういう場面にはならないと思いますが、そういう体験をすると良いでしょう。

しいわ か れい われよ これ い き ちょう た
子曰く、夏の礼は吾能く之を言えども、杞 徴するに足らざるなり。

いん れい われよ これ い そう ちょう た
殷の礼は吾能く之を言えども、宋 徴 するに足らざるなり。
ぶん けん た ゆえ た すなわ われよ これ ちょう
文 献足らざるが故なり。足らば 則 ち吾能く之を 徴 せん。

夏王朝の礼式について私はよく話をしたけれども、夏の子孫である杞の国では、どうい
う事が行なわれているか、証明するものがない。

殷王朝の礼式についても私はよく話をしたけれども、後殷の子孫である宋の国も、証明
するものがない。

文(記録)や献(賢人・物知り)といったものがないから、なかなか証明が出来ない。
もし記録や物知りがいれば、これらを証明する事が出来るであろうに、と孔子が嘆いてい
ます。

今の時代、特に文(記録)を必要とされる事が多い。記録は色々な形で取っておくのがよ
ろしいと思います。

しいわ てい すで かん のち われ これ み ほつ
子曰く、禘 既に灌してより往は、吾 之を観ることを欲せず。

禘とは、自分の両親だけでなく先祖のお祀りをする祭祀です。

灌とは、お神酒を大地に注いで、神様を大地に呼び降ろす儀式です。

「先祖のお祀りをする儀式で、神様を大地に呼び降ろす儀式を始めたら、もう私はこれ
を見たくはない」と孔子が言った。無作法な人間が、礼儀を氣にもしないで儀式を行な
おうとしている。こんな礼儀知らずの野蛮人の集りに、私はいられるものが・・・とお考え
下さい。

私は以前、高校生の前で論語の話をして欲しいと頼まれて、伺った事があります。そう
しましたら、最初はがやがやしてうるさい。パフォーマンスをしないと、うるさいま
まなのです。そこで、机をボンと叩いて、「先生が前で話をしているのを、あなた方は一所懸
命背筋を伸ばして聞かなければいかん・・・」と言いました。その後は、一所懸命聞いて
くれて、交流も出来た記憶があります。ですから無作法者が集っている場所では、それな
りのパフォーマンスをしなければ、聞く耳を持たないと思います。

祖先を祀るお祀りで、お神酒を大地に注ぐ儀式ですから、相当厳肅な雰囲気の中で、礼
儀作法もきっちりと云う場面なのでしょう。その意味も何も分からないでやっているの
は、私は見たくないと言っています。

ある てい せつ と しいわ し そ せつ し もの てんか お そ
或ひと禘の説を問う。子曰く、知らざるなり。其の説を知る者の天下に於けるや、其

こ　　ここ　　み　　ごと　　そ　　たなごころ　　さ
れ諸れを斯に示るが如きかと。其の 掌 を指す。

そのような状況の中で、或る人が「禘というお祀りはどういうものなのでしょうか？」と孔子に聞きました。

孔子が「私は知りません」と答えたのですが、そういう野暮な事を聞くものではない・・・という場面でしょう。よく知っているけれども、話しても分からない人、或いは話してはいけない人に対して、「知りません」と言っているわけです。

この「知りません」との言葉で思い出されるのは、山田方谷と春日潜庵のことです。幕末に春日潜庵という陽明学者が捕まって、安政の大獄の頃ですから、当然自分も首を斬られるだろうと思って腹をくくっていた。それが理由もなく釈放された。それは、友人だった山田方谷が命乞いをしてくれたからだったのですが、その時山田方谷は、本人にも周りの人にも一言も言わなかった。聞かれても「知らないよ」と言ったわけです。これは重みある言葉ですね。こういう台詞は、何処かで誰かにやってみたいものだと思います。こういう行いを続けられたら、多分心豊かなのではないかという気が致します。

其の説を知る者の天下に於けるや、其れ諸れを斯に示るが如きかと。其の掌を指す。・・・
自分で天下を治めようというような人間は、ここに天下を乗せたようなものではないか、と掌を見せた。

祖先を祀る禘という祀りを魯で行なう事自体が、礼儀作法から外れていると孔子は思っているわけです。礼儀作法に外れている人間が、礼儀にかなわない祀りをしようとしている。これはおかしいと孔子は腹の中で思っているわけです。

細かく言うと、先祖の位牌を並べる時に、文公が自分の父親の位牌を、順序を変えて上位に置いたことも礼儀知らずだと孔子は思っている。

そこらへんの事を全部承知の政治家が、「今、行なわれている禘という祀りは、どういう意味があるのでしょうか」と孔子に尋ねたのです。孔子は清濁あわせ飲んで知っていますから、そんな言葉の落とし穴に引っかからないで、「私は知りません」と答えた。素晴らしい台詞だと思います。

今日の論語の中で、良いと感じた台詞が2つあります。

一つは、「知らざるなり」という台詞です。「知らない」と言える事は、大変な重みを持つ。本当に知っている人は「知らない」と言えるけれども、知ったかぶりをする人は、何でも「知っている」と答えてしまう。ですから「知らない」と答える人の方が、勇気があります。実に素晴らしい台詞だと思って戴きたい。

もう一つは、「巧笑 倩たり、美目 盼たり、素 以て絢を為す」という詩です。語呂も良いですし、よい文句だと思います。是非自分で訳してみると良いと思います。

基本哲学 中斎塾の哲学とビジョン

では、レジメに戻ります。初めての方がおられますので、中斎塾フォーラムについて少し申し上げます。

人間が生きていく上で困る事が沢山あります。その時に、どう判断すればよいかという事を、自然と身に付けるような学問です。基本になっている考え方は、知足です。足るを知る。もっともっと・・・ではなく、腹七分目でやめておく。ほどほどで良いという考え方（哲学）を身に付けて戴きたいと思っています。

それを学んでいく間に、自然と身に付くものが判断の三原則です。判断をする時に、本質・大局・歴史という三つの視点でものを考え、判断する。その能力が身に付いて来ます。それらが出来てくると、知識・見識・胆識が身に付くようになります。世の中は情報（知識）が溢れています。それらをどんどん取り入れているうちに、本物の情報とどうでもよい情報が選り分けられるようになって来る。更に、この問題についてはこうすべきだという見識が生まれる。見識が生まれたら、あとは、土壇場に追い詰められて実行すると、胆識という言葉になります。それらを自然と身に付けるようになっていく。胆識までいけば、しめたものです。

更に、夜寝る時に、嘘をついたかな？ 今日是一日良い日だったかな？ と考えて戴いて、今日是一日、嘘をつかなかったと思ったら、自分の家族・ご近所に嘘をつかない事の効用を伝えて戴いて、嘘をつかない運動が広がると良いと思っています。

それらが集約されて、足るを知る運動に昇華させていきたい。そう考えて中斎塾フォーラムを進めております。

テーマ 三識（知識・見識・胆識）で今を見る

本日のテーマは「知識・見識・胆識」の2回目です。

最近の知識で見ますと、私が氣になったものでは、北朝鮮がミサイルを発射した事です。これは知識として皆さんご存知の事と存じます。でもそれをどう捕らえるかについては、見識になります。

また、今、安値合戦・デフレスパイラルが広がっているという事も氣になります。池袋

の西友で売り出した 290 円弁当や、埼玉には 250 円弁当もあるそうですから、一度買って食べてみたいと思っています。牛丼合戦もマスコミで報道されています。イトーヨーカドーやイオンも、どんどん安値合戦を仕掛けています。これらは一体何なのでしょう。

私は去年は、インフレとデフレのよじれ現象だと言っていました。今年はデフレスパイラルの方が進んでいるけれども、インフレは相変わらず続いていますから、ある日突然、破綻現象が起きる。デフレスパイラルはそんなに長く続くものではないと思っています。以前は大きくて重たいものだけがどんどん安くなると申しましたが、最近は、軽くて安いものが更に安くなっています。これは異状だと思います。異状な事は、そんなに長く続くものではない。イオンさんを見ても、役員の賞与は全額カットです。部課長クラスは 15% カットです。自分たちの人件費を削って安くしているのです。シムックスはイオンさんから見ると外注先ですから、当然どんどん値引きをさせられています。どんどん値下げが進めば、自分たちの人件費・お給料にかかわってきますから、デフレスパイラルの行き着く所は、皆、小さく縮まって最後はナメクジのようになっていくと思っています。途中で息ができなくなると、今度はインフレに変わります。それもハイパーインフレになるとしています。

日本が今、異状であるという事を、政治家があまり言わない。「百年に一度の経済危機」という言い方をしていますが、お題目にしか過ぎないと感じます。

では、アメリカどうでしょうか。私は以前から一貫して話していますが、ビッグスリーは倒産するに決まっていると思います。倒産するための条件が、どんどん増えています。ビッグスリーが倒産しても、せいぜい 400 万人から 500 万人が職を失うだけで、津波が日本に来るけれども、日本が壊滅状態になるほどの経済危機ではない。GM もクライスラーも、時間の問題になってきています。私が氣になって仕方がないのは A I G です。A I G が倒産したら、日本には経済津波が来るとしています。A I G の動向は非常に気になります。アメリカの動きと日本の動きは非常に直結していますから、日本を見るよりアメリカを見ている方が、日本の今後の経済を見るのに役に立つと思っています。

お金は今も借りられない状態ですが、これで 1 ヶ月 2 ヶ月すると、更に借りられなくなります。今の状態だと、政府が補正予算を通してお金を市中に出回せるような動きをしていますから、借りる人は凄まじく増えています。この結果、倒産して当たり前だと思う会社が、潰れないで現在にきています。無理矢理やっていたら、どこかで穴が開きます。もうどうにもならなくなっているものを、無理矢理繋ぎとめているだけです。5 月危機が表面化すれば、凄まじい数の倒産が出ます。そうすると自分のお客さんもかなり潰れますから、当然給料は払えなくなる。借金も払えなくなる。それがごく当たり前になります。で

すからそこらへんを見越して、何らかの形でお金が借りられるのであれば、借りて寝かしておく方が良い。これは見識になります。私は去年の夏ごろに申しましたし、今も一貫しています。政府系の金融機関はお金を貸したくて仕方がない。民間の金融機関は、貸さないように貸さないように、むしろ貸せない状況になっています。

大きな津波が一段落した後に、残るものは何か。それは本物の会社・本物の人間、いわゆるプロフェッショナルです。これに命を懸けているのだという会社・人間が生き残ると思っています。まがい物は通用しなくなる時代に入ってきていると思っています。

今、色々変わった動きが沢山あります。例えば、金・土・日だけ開けているスーパーがテレビで報道されていました。他の日は開けているとお金がかかるからやらない。お客さんが沢山来る週末だけ開けて、1ヶ月1億円を軽く売り上げているそうです。

時事問題 ミサイルとクルマ

残り時間が数分ありますから、先ほど申しました北朝鮮がミサイルを発射した事についてお話します。日本の立場から見ると、日本が北朝鮮のミサイルを撃ち落せないという事実が世界に広がりました。日本は情報・伝達網が皆無と言って良いと思います。それも世界に広がってしまいました。北朝鮮から見ると、日本は北海道から沖縄までミサイルを簡単に撃ち込める状況になった。そのうち、ミサイルの先に爆弾を積んで日本に撃つて来ると思います。核弾頭は積まないと思います。普通の爆弾を仕掛けて日本に送ってくると思います。日本政府は現実には被害が起きない限り、人が死なない限り、対応できない仕組みになっています。今回北朝鮮は、日本はこれほど鴨だったのかと強く知ったと思います。ですから北朝鮮は、日本を鴨にすると同時に、アメリカと直接交渉するための武器を手に入れたわけです。これが今回のミサイル発射事件だったと思っています。

テレビにしても新聞にしても人さまの話にしても、皆、眉唾で聞いていないと怖いものが沢山あります。この間、インドで20万円台の安い車が売られましたが、テレビの報道で、現地のインド人が「こんなに安い車なら、買わない人はいない」と言っていました。我々はそれを見て、全くそうだなと思ってしまう。けれどもこれは完全に作威的なものです。以前インドに行った時に感じましたが、本当に貧困層が多い。20万円の車を買えるような人は、ほんの一握りの富裕層です。これは日本人向けのやらせの台詞だと思って、ご覧になるとよろしい。

私の生活リズム

東京フォーラムで生活のリズムを 2 : 1、3 : 1 のリズムに変えたとお話しました。報告書をご覧になって「これは何ですか」という質問がありましたので、ご説明しておきます。

6 : 6 : 12 のリズムは食事のリズムです。朝 6 時にご飯を食べます。6 時間後の昼 12 時に食事を取ります。夕方 6 時にご飯を食べる。次の朝ごはんは、12 時間置きます。夜は食べません。これは非常に快調です。

もう一つは 2 : 1、3 : 1 のリズムです。今、非常に私は体調が悪いのです。こういったお話をさせて戴くと、夜、そして次の日に著しく体調が落ちるというメッセージが、身体の中から出てきています。これは休みをとらばいけない・仕事を減らさなければいけないと考えました。仕事を 2 日間やったら 3 日目はお休み、そして 3 日仕事をしたら、次の日はお休みというリズムです。そうすると 7 日で、ちょうど 1 週間です。ですから生活のリズムを 2 : 1、3 : 1 に決めました。人さまに話したら「休みすぎじゃないですか」と言われましたが、私は土・日・祝祭日は全部仕事の日なのです。はっと気が付くと、1 ヶ月間休みなく働いていることが当たり前のような状況で生きていました。世間一般は土・日・祝祭日は休みだったのかと、最近気が付いた。ですから、2 日仕事をしたら 1 日休み、3 日仕事をしたら 1 日休む。その他に土・日・祝祭日にぶつかった時には、ご褒美として、無理矢理休みにしようと決めました。

生活リズムをそんなふうにしたという事で、ご説明致しました。

以上で、本日の講話を終了させて戴きます。有難うございました。